

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間 2023/02/12 ~ 2023/03/22)

1. 勉学の状況

まず、履修科目は、“Chemistry 1”、“Climate change: From science to society”、“Understanding human behavior”です。履修科目を決めるにあたっては、はじめは大学のシラバスから専攻である化学分野の授業に目を通しましたが、Exchange student が取りやすい授業の一覧がメールで送られてきたので、その中から化学系を1つ、環境系を1つと、他の科目で一番興味がわいたものを選びました。渡航前は4つ選ぶように言われますが、現地に着いてからのオリエンテーション後に3つに減らしたり変えたりすることができました。

全体を通して、予習がとても大変という印象です。オンラインで勉強、動画の視聴、さらに予習の確認テストを行ってから授業に臨むという科目や、長い動画を見てメモをとっておくという科目、提示された論文をいくつも読み動画を見て、授業で行われるディスカッションについて考えておくという科目があります。これらの予習に平日だけでなく週末も費やすことが多いです。予習によって、おおむね授業自体についていくことはできますが、グループで話し合うといった時間は、周りのネイティブの子たちの会話がとても速いため、発言することはほとんどできません。これはこれからの課題だと思っています。ただ、予習は授業内容を理解するうえでかなり重要なので、すべての履修科目でしっかりと行うことをおすすめします。なお、予習などでは千葉大学と同じで Moodle を用いるため、すぐなじむことができました。今は大きな課題に追われています。現時点では2つ出ましたが、どちらもとても大変なので毎日不安ですが、頑張りたいと思います。

勉強環境としては、大学内に広い図書館がいくつもあったり、授業が行われる建物にも勉強スペースがあったり、24/7 で開いている場所があったりと、充実しています。私はキャンパス内の寮に住んでいるのでアクセスもよく、土日も開いているのがありがたいです。日本と異なることは、“Quiet Area”と書いてあっても話している人が多くいる場所があることです。そのため、本当に静かで集中ができる場所を探すのに少し苦労しました。

時間軸が前後しますが、授業前のオリエンテーションについても少し触れたいと思います。渡航して最初の1週間は寮のオリエンテーション、次の1週間は大学全体のオリエンテーションがありました。それぞれたくさんのイベントがありほとんどすべてに参加し、そこで友達も作ることができました。オリエンテーション期間のイベントは行ってみれば何か進展があることが多いので、できるだけすべてに参加することが大切だと思います。

2. 生活の状況

住む場所としては大学内の寮、大学の近くのアパートやシェアハウス、大学からバスや電車を使うと着くメルボルンのシティ内のアパートやシェアハウスなどたくさんの選択肢がありますが、私は大学内の寮に住んでいます。大学内に住んでいると周りの治安もよく、授業へのアクセスもよいため、とても満足しています。さらに、大学内の寮の中にはキッチンやバスルームが付いたアパートのようなタイプと、それらをシェアするタイプがあり、私はシェアするタイプに契約しました。シェアタイプの寮の利点としては、値段が比較的安い、コモンスペースで寮内の友達と交流することができる、寮によりイベントが行われる頻度が比較的高い、といったことが挙げられます。シェアキッチンなどを汚く使う人もいますが、設備自体はきれいで毎日清掃が入るので、利点が欠点を上回っているように感じます。

次に食については、現地に着いてから2週間は寮で朝ごはんが用意され、昼ごはんや夜ごはんも用意されるかイベントに参加してそこで何かもらったり買ったりしていたため、困ることはありませんでした。その後はずっと自炊しています。日本では実家暮らしだったため1人暮らしは初めてでかなり不安で、初めのころは苦戦していましたが、今は少し慣れてきました。食材は歩いて30分ほどのところにスーパーマーケットがあるので、週に1回ほど買い出しに行っています。外食においては物価がかなり高めのオーストラリアで

すが、スーパーマーケットに売っている食材は日本とあまり変わりません。むしろ、たくさん量が入っているので安いものや、食パンや果物など日本よりおいしいものも多くあります。また、水についてですが、飲料水の補給場所が街の至る所にあたり、寮内の蛇口は飲める水であつたりと、心配することは1つもありません。

最後に、交流や友達作りについてお話したいと思います。オリエンテーションについて書いたときに少しお話ししましたが、イベントに参加することが友達をつくる近道だと思います。寮で開かれるイベント、学校全体で開かれるイベント、留学生のために開かれるイベントに加えて、イベントをたくさん主催している団体に入ったためそこでのイベントにも参加しています。今でも毎回行く前に、誰かと話せるかな...と少し緊張していますが、たくさんの方がいてその中には同じように友達を作ろうとしている子もいるため、様々な子と関わることができます。加えて、オーストラリアは多民族国家であることをかなり感じます。私のつたない英語でもたくさん話してくれる、気の合う友達はまだ少数ですが、これからも友達作りを頑張っていこうと思います。また、3人以上で話しているといけなくなることも多いので、鍛えていきたいです。



オリエンテーションの様子（写真では伝わりづらいですが、かなり盛り上がっていました）



イベントの団体によるビーチデイの様子

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2023/03/23 ～2023/05/01)

1. 勉学の状況

早いもので、授業はもう後半戦に突入しました。まず、前回の報告書では課題に追われていると書きましたが、それらの課題は、理解するのが大変だったり論文を読むのに多くの時間を割いたり、かなりハードでした。早めに取り掛かったので時間に余裕はありましたが、その期間は毎日図書館にこもっていました。

その後は、2週間ほど授業を受けて、イースターブレイクに入りました。その期間は授業が全くありませんでしたが、ブレイク後の授業の予習がたくさんあったのでそれらを行いました。イースターブレイク明け授業が再開して、今に至ります。授業について全体としては、前回の報告書を書いたときと同様に予習を行い、チュートリアルを受けるという流れで、チュートリアルでは内容についていくのに必死です。特にグループワークが行われる場面では、自分があまり貢献できていないことに申し訳なさや無力感を感じる事が多くあります。いくら予習をしていっても、ネイティブの子たちと作業を行うにはまだ慣れませんが、発表の役になった際には(ほんのたまにですが)、周りの子たちに助けてもらって何とか乗り切っています。その分、発表が終わった時の達成感は大きいです。たびたび感じることは、ネイティブでない留学生への理解は人によるため、初回のチュートリアルでどのテーブルに座るかがとても重要だということです。専門用語などでコミュニケーションをとるのが難しくつらい思いをすることが多い授業がある一方で、それでも助けてくれたり、休み時間や授業後に話してくれたりする友達がいるため、ポジティブな気持ちで臨める授業もあります。また実験では、同じテーブルに友達ができただけで、毎回その子と楽しく実験を行うことができます。このように優しく話しやすい子たちに、とても感謝しています。

今は再び、2つのより大きな課題の締め切りが迫ってきています。友達との遊びとの両立は難しいですが、勉強できる時間は図書館や24/7の勉強スペースに通って、計画的に進められるようがんばっていこうと思います。

2. 生活の状況

食事は前回の報告書のときとほとんど変わらず、食費節約のために、どこか出かけたとき以外は毎食自炊をしています。お米はオーストラリア米を試しましたが、日本米との違いがあまりなく、フライパンで炊いておいしく食べています。寮のキッチンが共用であることは、忘れた材料をすぐに取りに戻れないなど不便なこともあります。必要なものを事前にメモしたり、混雑を避けるために料理する時間を遅くしたりするのを習慣にして、適応できるように努めています。

服装については、前回と変わり、最近寒くなってきました。メルボルンは気温差が激しく、軽めの服装で外に出るときもありますが、基本は夜の寒さを気にして、ダウンジャケットを着るようにしています(そのため、ダウンジャケットを日本から持ってくることをおすすめします)。

そのほかの生活については、夜遅くに集団で帰ってくる寮の人たちがいることが、少し気になります。私自身も夜に日本の家族や友達と電話したりして声が聞こえているかもしれませんが、夜早く寝るタイプでなく起こされることもあまりないので、怒っているわけではありませんが、夜早く寝る人や寝ている間に音がなると気になってしまう人にとっては、煩わしく感じるかもしれません。このような方には、共用するものがない1人部屋の寮(Monash大学ではUrban Communityと言います。ちなみにバスルームやキッチンを共用する寮はResidential Villageと言います。)をおすすめします。

最後に、友達との関係についてお話しします。交友関係は前回の報告書のときからかなり変わった気がしています。まず、イベントで知り合った子2人が色んなお出かけに誘ってくれて、メルボルン市内の様々な場所に行くことができました。私がインスタグラムなどを見ていて行きたいと思った場所に、一緒に行くこともできました。さらに、その子たち

とお泊り会も開くことができ、一緒にいるととても楽しく居心地がよいです。以前は交流が比較的多かった寮の子たちは、料理をする時間が合ったら一緒に食事をする程度で、最近はおそらく各々の課題や用事があり、あまり交流がありません。ただ、寮にとっても気の合う子が1人いるので、その子とイースターブレイク中に一緒にショッピングに行くなど、会えた際には楽しく過ごしています。一緒に遊びにいけるような友達の交流の輪が広いとは言えませんし、他の子たちとのコミュニケーションにはまだ苦勞していますが、仲良くしてくれる子たちのおかげで、以前よりもポジティブな気持ちで生活できているように感じます。これからもこのような交友関係を大切にしていこうと思います。



週末に行った Briton Beach



動物園のカンガルー



友達の部屋でのお泊り会